

# 1 長期育成循環施業に対応する森林管理技術の開発 に関する調査（第4報）

予算区分：国 補  
担当科名：森林育成科

研究期間：平成 11～15 年度  
担当者名：小谷 二郎  
千木 容

## ．目的

木材価格の低迷や環境保全機能の向上などから人工林の伐期が延長化されることが考えられる。そこで、今後の長伐期化に対応した林分収穫表や育林体系を整えるため、長伐期に適した環境条件の抽出と保育管理方法を検討する。

## ．試験内容

スギ高齡林の立地環境特性を調査するとともに、高齡林の林分構造および成長経過を調べる。

## ．試験結果

### 1．高齡林の成林立地環境特性

県内 40 箇所、80 年生時での樹高を基準として、好成長に係る立地条件を抽出した。その結果、標高 500m 以下、凹型地形、南以外の方位、火山岩地質、10～20° の斜面傾斜地が長伐期の最も適地であると判断された。

### 2．低標高地帯での形質劣化要因

標高 500m 以下に存在する 30 箇所の高齡林で、形質劣化要因を解析した。その結果、幹曲がり・枯れ枝の付着・不定枝の 3 つが要因としてあげられた。これらは、保育不足による林分の過密が原因として考えられた。

## ．今後の問題

間伐手遅れ林分の長伐期への誘導方法を考える必要がある。